

## 第五十九回「大会」のお知らせ

日 時

二〇二〇年五月三十日(土)  
十二時四十五分～十五時三十分

会 場

日本女子大学 人間社会学部  
A棟二階第一会議室(西生田キャンパス)

大会日程

第一部 総会(十二時四十五分～十三時十五分)

- ・会長挨拶
- ・二〇一九年度事業報告及び各部報告
- ・二〇一九年度会計報告・監事報告
- ・役員改選・承認
- ・二〇二〇年度事業計画・予算審議
- ・その他

第二部

第二十四回「学縁の集い」  
(十三時十五分～十五時四十五分)

準備の都合上、なるべく同封のはがき  
またはインターネットで五月十五日(金)  
までにお申し込みください。(申し込みな  
しでの当日参加も歓迎です。)

申し込み

※卒業生の方は、西生田キャンパス入構・スクール  
バス乗車に際し身分確認用として、「葦」送付時の  
封筒をご持参ください。



— 第76号 —

〒214-8565  
川崎市多摩区西生田 1-1-1  
日本女子大学教育学科の会  
電話 044 (952) 6870 (代)  
FAX 044 (952) 6889  
ホームページ  
<http://jwu-gakuen.net/>  
メールアドレス  
[info@jwu-gakuen.net](mailto:info@jwu-gakuen.net)

## 「教育学科の会第五十九回大会」のお誘い

会長 田 中 雅 文

今年も、多くの卒業生と在校生の皆様のご参加を願って、大会のご案内をいたします。

大会は、第一部「総会」と第二部「学縁の集い」で構成されています。総会は、前年度の成果と課題を共有し、新年度の活動方針を決定する重要な機会です。今回はとくに、会費支払いの簡素化など、会員にとって参加しやすい会への刷新を提案します。

学縁のつどいは、今回が二十四回目となります。学生委員を中心に企画・運営をおこなっており、毎年、参加者から好評を博しています。昨年度は、小学校と地方自治体、それぞれの職場で活躍されている先輩方にご講演いただきました。実践力の高い教員としてのノウハウ、地方公務員の仕事の魅力など、ご経験にもとづく魅力的なお話をうかがいました。その後、講演者との間で意見交換・質疑応答を行いました。参加した在学生には大きな学びの機会になり、卒業生にとっても自分自身の学生生活と職業生活をふり返る機会として有効だったようです。

この数年間、運営に対する学生委員の参加が活発になり、教育学科の会の活動が豊かになってきました。会のウェブページ(<http://jwu-gakuen.net/>)も随時更新されています。

大会に多数の皆様が参加されることをお待ちしております。

## 「学校唱歌校門を出でず」

教育学科准教授 丸林 実千代

多くの学校で、子どもたちが学校の音楽授業を楽しくないと感じているようです。この傾向は学年が上がるにつれ増加しています。その原因として、学校教育における音楽授業と学校外での音楽活動の乖離が指摘され続けています。その乖離状況を揶揄する表現として「学校唱歌校門を出でず」と明治期から言われています。実際、学校の音楽授業では積極的に歌わない子どもでも、学校外では様々なメディアに合わせて楽しく歌い、さらにはそれに合わせて身体を動かしダンスを踊り、全身で音楽を楽しんでいます。そのような姿に、人間と音・音楽との本来の自然な関係を見出すことができます。

このようなことから、現在の学校音楽教育の閉塞感を打開するためには、人間と音・音楽との自然な関係について再考し、その原点に立ち返ることが求められると思います。またこれは、現在までの学校音楽教育は不自然な形で推移してきてしまっているということです。

日本の学校音楽教育は、明治初期に「唱歌」という名称で開始されました。そして当時の日本人は、西洋音楽を優れたものと憧れ、学校教育の教材を西洋音楽から学び創ろうと「国歌創成」を試みました。その際、日本人の音感覚(五音音階など)に近い旋律楽曲を西洋から輸入し、それに当時の日本人に求められた倫理性や花鳥風月の趣向を練りこんだ歌詞を国文学者が創り当てはめました。これは唱歌における「和洋折衷」と言われますが、楽曲創作として無理があり極めて不自然です。その数年後、日本人による旋律の創作が試みられ、当時の国文学者が作詞し、東京音楽学校出身の音楽家が作曲しました。この時創られたのが、「春の小川」「もみじ」「ふるさと」などの国定の文部省唱歌です。

そして百年以上も経た現在においても、共通教材として文部省唱歌を子どもたちに歌わせるよう、学習指導要領で指示されています。明治期の国文学者や音楽家の感覚で創られた教材を、令和の子どもたちに歌わせようとしている学校音楽教育は、極めて不自然な形態と言わざるを得ません。(ここでは教材「唱歌」を不自然性の例として取り上げましたが、他にも学校音楽教育には不自然な点があります。)そこで、このような状況を脱却するために、人間と音・音楽との自然な関係への回帰という思考の転換が求められると考えます。

提言

## ホームカミングデー 講演会

毎年、日女祭にあわせて開催しているホームカミングデー・講演会で今年も外国人落語家の桂福龍氏にお越しいただきました。

桂福団治の正式な11番目の弟子となった桂福龍氏(以下福龍氏)による講演会が、10月19日(土)13時〜西生田キャンパスA棟第1会議室にて行われました。休日にも関わらず、人間社会学部の在学生、教育学科の卒業生の方、地域の方々、教職員の方々など、約50名が参加する盛大な会となりました。



### 「落語の世界を watching—カナダ人落語家から学ぶ日本文化の魅力—」

というタイトルは、プロジェクト実践演習Ⅱを履修している学生たちで話し合いを重ね、ようやくたどり着いたものであった。

このタイトルになった理由は二つある。

一つ目の理由は、私たちにとって落語はあまり馴染みのない存在であり、落語にどんな魅力があるのか興味を持ったことである。そのため、今回の講演会で落語を披露していただくことで、落語についての理解を深められるのではないかと考えた。

二つ目の理由として、聞いている側の興味・関心を引き出すような話の構成や話し方を学ぶことは、今後就職活動など様々な場面で必ず活かすことができるからだ。

講演は大きく分けて四部構成で進んでいった。まずイントロダクション

ンでは、「日本人扱いと思ったかも知れないけれど、日本人ではないですよ。」という冗談交じりの自己紹介から始まり、扇子や手ぬぐいの使

い方、落語をするときに使う言葉や座り方、落語を聞く際に笑ってほしいタイミングなど、様々な視点から落語の楽しみ方を教えてくださった。福龍氏は観客にたくさん問いかけを行うなどして、その返答を交えつつ講演を進めることで観客と一体となる、終始賑やかで笑いの絶えない講演を作り上げた。

### 【寿限無】

一席目は、「あ、こんにちは、こんにちは、くま五郎さん」という台詞から始まった。話が進むにつれて、寿限無の友達やお父さんお母さん、おばあちゃんが登場した。それぞれ声のトーンや仕草、話し方などで違いを出していた。特におばあさんのところでは、入れ歯を入れるシーンがあり、モゴモゴしてる様子を口の動きや音で再現していて、本当に入れ歯を入れているようだった。

### 【Lazy boy】

二席目では、英語ベースの落語が披露された。冒頭では「英語は難しいものではなく、Helloも英語だ。心配せずに聞いてほしい。」といった趣旨の説明が入った。

二席目は、ある日、いいバイトがあると紹介され、行ってみると動物園で「トラになりきる」という仕事を振られた男の子についての話であった。トラのものまねをするシーンがあり、「One two three and four」というセリフに合わせてトラの歩き方を腕で表現する姿は、観客

量をもぎもぎと見せつけられた。

にその情景を見ているかのように思い描かせるものであった。その豊かな表現力に魅了され、言語の壁を越えて、嘶に入り込むことができた。

### 【最後に】

「今はスマホなどのテクノロジーマルティメディアから、それ無しでの楽しさを味わってほしい。」四部構成のうち第四部「トーク」の中で福龍氏はこう語っていた。確かに現代は、映画や音楽、講演など様々なものがスマートフォンで見られる時代だ。福龍氏は落語のことを「頭に映画を作るような仕事」であると表現した。落語は、あまり道具を使わない。今回の講演内でも扇子と手ぬぐいのみを使って様々なものを表現していた。例えば、扇子を箸に見立て食べる動作をしたり、扇子を筆、手ぬぐいを紙に見立て、手紙を書く様子を表していた。また声や喋り方の変化や、身振り手振りのみで構成されているため、観客の頭に映像が浮かぶかどうかは語り手の力量次第である、と福龍氏は語った。このように、直接見ないと伝わらないものもある

ということを今回の講演を通して感じ、これからはスマートフォンだけですべてを済ませるのではなく、直接触れていきたいと思う。

【教育学科 2年 有川 香音

薄田紗矢香

高山 紗季】



## 回生委員会のお知らせ

回生委員の皆様には大変お世話になっております。この度「葦」発送の方法を変更することになり、それに関連して回生委員会開催のお知らせを「葦」にてさせていただきますことになりました。宜しくお願い致します。尚、来年度の開催予定につきましては後日「葦」などでお知らせします。

### 2019年度 第3回回生委員会

日時：2020年4月25日(土) 13:00～15:00

場所：日本女子大学 百年館103教室(目白キャンパス)

議題：①会長挨拶 ②活動報告 ③新役員選出

④各回生の名簿チェック(持ち物：赤ペン、持っている方は自分の回生の名簿)

⑤講演会「西生田の思い出」～教育学科教授 田中雅文先生を囲んで～

2021年目白キャンパスに移転する前年である今年、西生田キャンパスを育ててくださった田中先生にお話を伺います。

※回生委員会出欠につきましては同封のはがきにて、回生委員の方は4月13日(月)までにお知らせください。

交代のある回生は新旧両方の委員の方がご一緒にご出席くださいますようお願いいたします。

※回生委員を交代される方は、新委員の【氏名、回生、住所、電話番号】を、同封のはがき表面の(近況や教育学科へのご意見等)の欄にご記入ください。

※はがきと同様にインターネットからもご連絡いただけます。(P.7「お知らせ」参照)

※ご不明な点がございましたら、回生委員会委員長・萩野までご連絡ください。

萩野(25回生) TEL/FAX 0467(83)4054

## 懇話会の報告

## 「これからの救急のはなしをしよう」

湘南鎌倉総合病院 医師 山上浩先生

## 山上浩先生のご紹介

先生のご出身地は福井県。(最終バスが18時という山深い場所だったそうです) 福井大学医学部を卒業後は内科医としてスタートされましたが「思う所あって」救急総合診療科に転科されました。救急総合診療科はその名の通り、すべての科を網羅した総合的な知識を必要とするもの。外傷、内科的疾患、外科的疾患はもとより婦人科や耳鼻科等の専門的な領域までの知識を基に、全身の身体診察を短時間に行う科目です。

先生が勤務されておいで湘南鎌倉総合病院はすべての外来患者に医



療を提供しているため当然ながら『意識のない』患者が搬送される事もあります。ご自身で歩いて外来を受診する場合も紹介不要ですすべての患者を24時間365日受け入れているため『奇跡の病院』と言われていきます。

## 救急車のジレンマ

まずはあらゆる緊急疾患の患者と接している山上先生の貴重なアドバイスをお伝えします。高齢者の誤飲の一位は薬の『PTPシートの飲み込み』です。認知症の人でなくとも小さく切った錠剤をシートごと飲んでしまった方が搬送されます。対策としては、シートは大きのまま使用するか、複数の投薬を受けている場合は調剤薬局で『一包化』指定するとよいそうです。第二位は洗剤や漂白剤を『誤飲』するケース。空いたドリンク用ペットボトルに危険な

薬剤を入れるのは命にかかわります。第三位は『尻餅』による骨折です。お掃除や電球交換の際に使用する脚立は危険です。もう一つの日常に潜む危険行為は『ゴミ捨て』。雨や雪の日は地面が滑りやすいので細心の注意が必要です。些細な日常生活の「おととつ」が寝たきりの原因になっています。

といった豆知識はさておき。前述のような状況の際「救急車を呼んでよいのか?」迷う所ですね。「ちよつとしたうっかりだし」「自分のミスだから」と考えてしまいますが119番通報を躊躇する必要はないと先生は仰います。「街中で見かけるポスターで『軽症で救急車を呼ぶのは迷惑行為』と呼びかけているし」と逡巡しますが、『軽症』という統計データは結果論をもって救急車を呼んではいけないとするのは早計です。何故か?

あらゆる可能性を考慮し判断するの  
が医師の仕事

山上先生のご担当が救急総合診療科である事は先ほどお伝えしましたが、総合的な医学の知識と経験とデータで判断する専門家。めまいという症状でも「耳鼻科」「脳外科」といった可能性があり、総合的に判断する救急総合診療科において「単なるめまい」という概念はなく、あらゆる可能性を見極める「判断のプロ」。素人では判断できるものではありません。たとえ失神して意識がない状態の搬送患者でも入院せずに「帰宅できれば軽症」として仕分けされるため軽症の範囲は実に広く、結果として「軽症」となってしまうのです。つまり遠慮する事なくプロの判断(初期評価)をおおぐのが正しいといえます。

複数病院の連携を行っている鎌倉市では初期評価は湘南鎌倉病院の専門領域です。初期評価を行うにはそのための医療資源を備えている必要があります。オールマイティな医師だけでなく、判断を支える検査技師、



検査機器、看護師のすべてが救急医療に対応できるように24時間365日スタンバイしなくてはなりませんので難易度が高いのです。

119番段階で受け入れられなかった病院も救急総合診療科での初

期評価後ならば転院受け入れが可能です。当直医といえども当番制の専門医。自分の専門領域外の事はわからない。判断できませんが、初期評価がついた患者であれば「脳だったらわかりますよ」「心臓だったら対応可能です」と搬送を受け入れます。ちなみに湘南鎌倉病院は転院する搬送患者のための救急車を備えています。

### 救急医療の現場からの未来の患者へのリクエスト

意識レベルが低く会話もままならない搬送患者の診断には情報収集が必須。「日常的に摂っている薬は何か?」「体質的に使えない薬はないか?」「連絡を取るべき相手は?」等々意識のない患者は何も教えてくれません。搬入されるや医療スタッフは情報収集を開始します。携帯品から情報を獲得し

(時には携帯電話のロックを解除)、かかりつけ医から患者の医療情報を開き出すために折り返しの電話を待つのが日常です。いきなりの電話にかかりつけ医サイドは医療情報提供に時間がかかってしまうため、情報は携帯するべきです。

いつ何時訪れる緊急事態に備え、おくすり手帳は携帯して欲しい。スマホのロックは指紋認証が望ましい。(暗証番号は困る) お財布にはかかりつけ医の診察券を入れておいて欲しい。手帳には家族の連絡先なども書き入れておいて欲しい。

更にはできれば、元気なうちに延命治療について「私の心積り」を考慮しておいて欲しい。

自らが望む最終医療について考える機会を作り家族と話し合っておいて欲しいのです。この取り組みを厚生労働省は『人生会議』と命名しました。

山上先生にご登壇頂いた11月30日は「人生会議の日」でもありました。是非とも皆さんにご興味持って頂きたいと仰っていました。

【文化部 37回生 中込知野】



## 目白キャンパス 見学会に参加して

秋晴れの十一月十二日(火)、みなさんとともに目白キャンパス見学会に参加しました。懐かしく、そして新鮮で、充実したひとときでした。

### \*成瀬記念館分館(成瀬仁蔵先生旧宅)

前回私が見学したのは卒業四十周年記念の時でした。その後移築され復元修理された建物を今回拝見して、さらに上品で風情が増したと感じました。一階で興味のあった部屋は明治時代の台所です。お手伝いさんが心を込めて作った料理の中で、成瀬先生がお好きだったのは何だったのかしら?と楽しく想像しました。太られていた大隈重信公が訪れたときにはロープを使って階段を上られていたと伺い、驚きましたが、何となく想像できるかなり急な階段でした。恐る恐る上ると、二階には書斎や寝室などがありました。書庫には天窓があり、暖かい陽射しが入るようになっていて明るかったです。夏は暑くて大変!と学芸員さんがおっしゃっていました。廊下の隅にあった書庫は素敵でした。廊下の隅にあった書見台にも興味を持ちました。成瀬先生は書見台に置いた本を歩きながら読まれていたとのこと。本がとてもお好きだったのでですね。書斎やベッド、告別講演で座られた椅子などその当時が偲ばれ、成瀬先生のお心を感じられたお宅でした。階段は

下りるものなかなか大変でしたが、

### \*成瀬記念館

お隣の成瀬記念館では、没後百年記念成瀬仁蔵書簡展が開催されていました。成瀬先生が留学中、奥様マスエ様の手紙を待ちわびて、一日に二度朝夕に郵便局に通われていたことを知り、お二人の仲睦まじさに感動しました。でも奥様はご病気で生活の困窮で辛い日々だったのだなと悲しくなりました。成瀬先生は奥様のことをずっと案じられていて、なんだか切なくなりまして。成瀬先生がアメリカ留学から帰国されてからいろいろ理由で離婚されましたが、その後もマスエ様を物心両面で支え続けられた先生の愛情に心打たれました。みなさん時がたつのも忘れて、熱心に書簡を読まれていました。

### \*成瀬講堂

足を踏み入れたとたん、入学式卒業式、教養特別講義などの思い出がよみがえって来て、懐かしさで胸がいっぱいになりました。あの頃はもっと広く感じましたよな。改めて歴史ある重厚な講堂に感動です。

「五十年ぶりかしら」という声も



聞かれ、みなさん、とても懐かしそうでした。新しい椅子の背には、創立百二十周年記念に寄せて、寄付された方々のお名前がありました。その中にご自分の「○○回生一同より」の文字を見つけられ、嬉しそうなお顔のみなさんも。二階に上がり、下の風景を見ながら、椅子に座って、ちよつとおしゃべりしながらしばし思い出にふけりました。一挙に大学時代に戻ったような気持ちでした。

### \*泉フロートガーデン(百年館屋上庭園)

さあ今度は爽やかな秋の風を感じる屋上庭園へ。手入れの行き届いた庭園を見ながら、しばらく散策し、それから興味は屋上から見える風景や建物に集中しました。「東京ドームが見えましたよ!」「え、どこに?」「ほらあの丸い形の、線が入っている。」「あつ、見つかった!」などとおしゃべりが弾みました。暖かい日はここで瞑想するのもいいですね。いい考えが浮かびそうです。撮影をされるなどみなさん楽しそうでした。

### \*新図書館

最後はお楽しみの新図書館へ。正面玄関には「VERITAS VIA VITAE」の懐かしい言葉があるではありませんか!「VERITAS」は真理「VITAE」は人生、生命を意味するラテン語だそうです。緩やかなスロープを上って振り返ると、地下と一階のみなさんがよく見え、落ち着いた広々

とした雰囲気を感じ醸し出して、地下一階から四階まである素晴らしい設備の図書館です。

### 卒業生で

あり、世界的な建築家妹島和世氏の斬新なデザインに圧倒される思いでした。椅子や机のグループ形態がすぐに変えられ、講義や話し合いがスムーズにできるアクティブ・ラーニングのスペース。ここで勉強に励みたい!と思うようなレクチャールームなどなど。学生さん達はお幸せですね。

卒業生も利用できるということですので、私達もその幸せを少し分けていただきましょうか。目白に来るのが楽しみになってきました。

二時間余り夢中になって見学したので、私などは最後になちよつと疲れたーと思ってしまうましたが、心地よい疲れでした。

何より青春の宝物を再発見できたことは私たちの心をより豊かにしてくれたと思います。企画してくださった方々、ご案内くださった方々、ありがとうございました。17回生から44回生まで二十八人充分満喫できましたよ。



会員の広場

ハガキコーナー



◆五月の「学縁の集い」のゲストスピーカーとして話をさせていただきました。拙い話でしたがみなさんが熱心に聴いてくださり、嬉しく思いました。また、すぐ学生さんの感想を送ってください、みなさんの前向きなお姿に感動し、若い方達のエネルギーをいただきました。

(赤塚国子 24回生)

約十五年経ちます。今でも大学時代の友人と会うことが多く、あのたった四年間の出会いが、その後の人生を大きく左右していることを実感します。大切な時間でした。

(伊藤めぐ美)

◆小学校の教員として約八年、子ども達と共に過ごし、充実した日々を送ってきました。現在は育児休暇をいただき子育て中ですが、今でも吉崎ゼミの仲間と集まり、仕事や子育ての話ができることがとても嬉しいです。日本女子大学での出会いをいつまでも大切にしていきたいと思

います。

(岡田ゆい 59回生)

◆「葦」のおかげで母校とのつながりが消えず、嬉しく思っております。教育学科の会に出席したのは一体何年前のことか思い出せませんが、会の益々の充実と発展を祈っております。故郷淡路島では「イキイキ百歳体操」の老人グループが270以上もあり、私も世話人として頑張っています。脳の為にはクロスワードが趣味のひとつです。

(高見律代 9回生)

◆福島県に移り住んで早や二十一年が過ぎました。この街が高村智恵子の故里で、日々、彼女のいう「ほんとうの空」をながめながら暮らしております。今や、二本松市のキャッチコピーは『ほんとの空』（原文によるとこうだそうです）。生家の前をしばしば通りながら、なつかしい女子大生活に思いを馳せております。

(福島県 15回生)

◆九年前からフィンランドとご縁ができ、年一〜二回のペースで学校訪問をしています。学力世界一を支える教育方法と内容はもちろんですが、特に、集中力や学習態度などに課題をもつ中学生を対象としたキャリア教育には、将来の社会参加を意図した工夫がたくさんあり、目を見開かされる思いです。先生方の余裕のある働き方も印象的で、日本でも取り入れられることを願っています。

(尾崎啓子 33回生)

◆五十五歳で国家試験を受け保育士の資格を取りました。パートタイムで保育所で働いています。色々とお気づきもあり、勉強になります。お子さん達のために保育士はどうあるべきか、考えながら第二の人生チャレンジです。

(滝嶋佳子 37回生)

◆早いもので、大学を卒業してから

お知らせ

今号より、事務作業の効率化と会員の皆様の利便性の向上を図るため、印刷・発送委託業者を変更しました。

それに伴い、今回から、会費の納入がコンビニエンスストアでできるようになりました（郵便局からの振り込みはできませんのでご了承ください）。同封の払込票をご使用のうえ、2020年5月15日(金)までにお振り込みください。システムの都合上、この期限を過ぎるとお振り込みいただけません。この機会にぜひご協力ください。

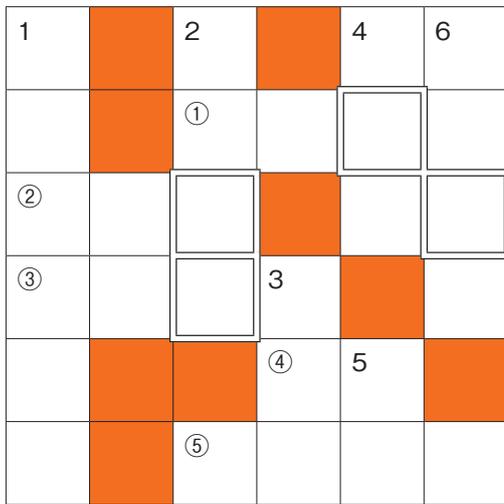
また、同封のはがきと同様に、住所等の変更や近況などをインターネットからもご連絡いただけます。パソコンの場合は右記 URL (<http://jwu-gakuen.net/signup>) から、スマートフォンの場合は下記 QR コードからログインしてご利用ください。（同じ QR コードが返信はがきにも印刷されています。）

これからも教育学科の会の活性化に取り組んでいきたいと思っております。会員の皆様からのご意見、ご提案をはがき、インターネットからぜひお寄せください。



## クロスワードパズル

二重枠の文字を組み合わせてできるひらがな4文字の言葉は？



答え

### タテのかぎ

- 冷めてもおいしいので、お弁当に。平安時代の美しい歌人にちなみ命名。
- カードゲームの一種。〇〇〇〇タワー。
- ジャマイカで生まれた音楽。2012年ユネスコが「無形文化遺産」に指定。
- 雑菌やぬめりなどから身を守る。「〇〇〇雲」は秋の季語。
- 〇〇が外れる。
- 小説、映画など、このジャンルが好きな人も多いのでは？

### ヨコのかぎ

- カナダの国技。2028年ロスアンゼルスオリンピックの正式競技を目指している。
- とんがり帽子のような蓋の鍋で作るモロッコ料理。
- 和製英語だが、最近は世界で通用するらしい。
- 一般的な履物ではなくなったが〇〇箱という呼び名は残る。
- 切るか伸ばすかで印象が変わる？

### <ヒント>

母の日のプレゼントに。

- ◆回答を同封のがきに書いて送ってください。(5月15日(金)締め切り) 正解者10名に図書カードを贈呈します。(正解者多数の場合は抽選)
- ◆前回の正解は<シルクロード>でした。 たくさんのご応募ありがとうございました。

### 【当選者】(敬称略・数字は回生)

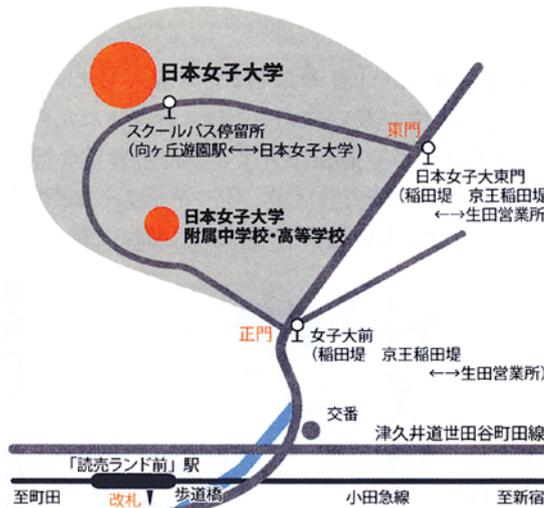
飯田 誠子 (8) 小林 都貴子 (12) 内田 昌子 (28) 櫻井 慶子 (29) 川島 明子 (31)  
 荻野 美香 (37) 杉下 智子 (50) 平田 香 (56) 川島 彩音 (67) 阿部 藤子 (M35)

## ◆スクールバスダイヤ

2019年度の土曜日用です。  
 2020年度は変わる場合があります。  
 ホームページでご確認ください。

時	向ヶ丘遊園駅北口発			日本女子大学発			
8	18	30	43				
9	07	20	50	25			
10	10	20	30	00	10		
11	15	40		00	20	40	
12	00	15	45	07	30	50	57
13	00	15	40	30	40		
14	00	30		10	40		
15				00	30		

※卒業生の方は西生田キャンパス入構・スクールバス乗車に際して、身分確認用として、「葦」送付時の封筒をご持参ください。



### 交通のご案内

- ◆小田急線 読売ランド前駅下車 徒歩 15分  
 新宿から急行 25分 (向ヶ丘遊園乗り換え)  
 新宿から準急 30分
- ◆小田急線 向ヶ丘遊園駅下車 北口3番停留所よりスクールバス (所要時間約15分 無料)
- 京王線 『京王稲田堤』駅下車 / 小田急バス(生田営業所行) 約12分 / 日本女子大東門または女子大前下車
- JR南武線 『稲田堤』駅下車 / 小田急バス(生田営業所行) 約12分 / 日本女子大東門または女子大前下車

年号表記の記載につきましては、原稿により、和暦と西暦があり、併用しています。

石井美奈子(会報編集部長 38回生)

★来年4月の人間社会学部の目白移転に向けて、目白キャンパスの工事も急ピッチですすんでいるようです。目白キャンパスで学んだ方、西生田キャンパスで学んだ方、それぞれの思いを乗せて新たな歴史の始まりですね。教育学科の会も守るべきものは残しつつ、時代とともに進化していければと思います。

★葦に同期の名前を見つけるととても嬉しいです。先日の見学会に参加し、久しぶりの友人に会え、懐かしの母校であったという間に学生時代にタイムトリップ。屋上庭園から富士山も見え、綺麗な図書館で貸し出し登録までして、充実した時間でした。企画運営の方々、ありがとうございました。

星野ひろみ(37回生)

★夕方4時には真っ暗だったロンドンですが、だいぶ日が伸び、春への一歩を感じます。来週から息子が現地のナーサリーにデビューします。先生やお友達とどうやってコミュニケーションをとっていくのか、文化や環境の日英の違いは？こっそり毎日覗き見したいくらい興味津々です！

佐野加奈子(59回生)

編集後記